

# 座右の銘は、『意志あるところに道は開ける』

## 特集 北海道

『一対一で人と向かい合う仕事がしたい。そう思つてこの仕事を選びました。』こう話すのは、地下鉄東西線新さっぽろ駅から徒歩10分ほど、住宅地を抜ける厚別中央通沿いに立地する「ひだまり整骨院」オーナーの宮城院長。取材は夜8時に伺つたがまだ数名の患者様が施術中。待合でしばしお待ちすることに。程なくして一人の患者様と宮城先生が談笑しながら受付に出て来られた。患者様は私に背を向ける形で立たれているので表情は伺い知れないが、宮城先生の明るい表情はとても印象的だ。生き生きと張りのある言葉。会話しているだけで元気をもらえそう、そんな気持ちしてくれる不思議な力を感じさせる。

院内奥には、自費メニューの骨盤調整用のベッド。並んで置かれているロデオボーイは、「患者さんに自由に使ってもらえばいいかな」と。(写真右)



女性に大人気の「高濃度酸素とドクターメドマー」。施術後にゆったりとお茶を飲み、雑誌を読みながらリラックスした時間を味わえる。(写真左)

開業して1年。『これから徐々に自由(自費)診療に力を入れていこうと思つてます』と。今はほとんどが保険診療という。『経営者としても素人、治療家としてもまだまだつていう段階だったので、あれもこれもやると自分で「何が出来る」とか「何が出来ない」とか、上手くいったとしても「どうして上手くいったか」失敗しても「何で失敗したか」分からぬだらうと思つ

治療家になる前のサラリーマン時代、ジーンズで有名な某アパレルメーカーで働いていた経験をお持ちだ。『その会社では本当にいろいろなことを勉強させてもらいました。札幌に転勤になった時は営業所長もさせていただけで、独立した部門を任せられ「経営的な観点を養う」ことも教えていただきました。しかし、それなりに勉強したつもりでしたが、甘かったですね。所詮「経営者(ハコ)"。この甘さは「(ひだまり整骨院)の開業後、この一年で実感してますよ。(サラリーマン時代)の売上あと1000万足りないよ、どうすんだよ!」みたいな話よりも、「ちょっと5000円足りないんだけど、今どうしよう」つて。リアルに重いですよ。「経営つてこういうことなんだな」つて今しつかり勉強している最中です。』

明るく広々とデザインされた院内。リラクゼーション系のお店と同じくらいゆったりとスペースを取りっている。カラーリングは「ひだまり」をイメージしたオレンジ系に統一されている。



ひだまり整骨院  
〒004-0022  
札幌市厚別区厚別南2丁目16-25  
コープラス巴里1F  
Tel&fax: 011-398-7522

院内中央のスペースに高濃度酸素とドクターメドマーを設置しているのが目を引いた。治療を受けられた患者様に無料サービスとして提供されるという。『女性、特に奥様に人気です。家庭持つてるから家に帰ると、家の中の事つて全部奥様の仕事じゃないですか。いくら手伝ってくれる旦那さんがいらっしゃっても、どちらかというと(家では)くつろげないみたいです。でも、(ニ)では女王様になつていただく。ゆっくりお茶飲んで雑誌読んで、リラックスして帰つてくださいと。凄く喜んでもらつていますね。』こんなことも差別化の一つ。『(オペレーションには)確かに手間がかかりますが、口コミでも「酸素もあるし、足の(メドマー)も凄く気持ちいいよ!」つて言つてもらえます。』

たものですから。あまりあれこれやらずに、ある程度絞りこんでいいて、その積み重ねを確実に。それで1年ずっとやつてきました。目標としては(新患)1日に1人。1年で365人来ていただければいいなと思います。今日で400名は超えていますので、自分なりの目標としては一つ達成できます(笑)』